

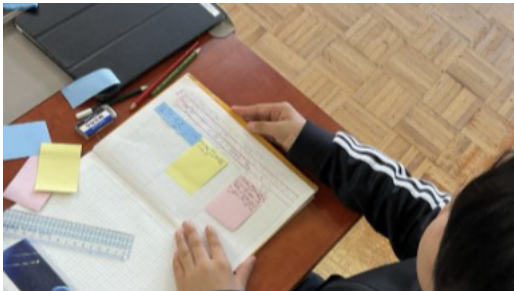
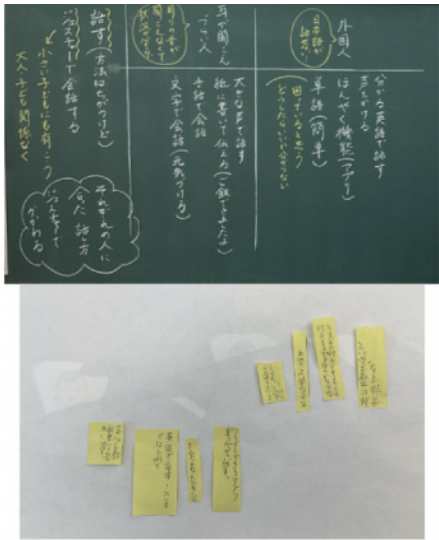
防災教育を軸とした教科横断的な学習のまとめ

1. 単元名 5年生国語 互いの立場を明確にして話し合おう
「よりよい学校生活のために」

2. 単元のねらい

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

3 単元の指導について

第1時	○地震による被害の写真等の資料から議題を決める。 議題「避難所生活で私たちができることは何か」
第2時	○議題に沿って自分の意見を明確にする。 避難所の様子を表したイラストを見ながら、「現状と問題点」を挙げ、それに対する自分の考え（「どのようなことをしたらよいか」、「理由・根拠」）を明確にする。  【現状と問題点】 ・避難所に幼い子どもや外国の人もいる。 【どのようなことをしたらよいか】 ・分かる英語で声をかけてみる。 ・一緒にあげるとよい。 【理由・根拠】 ・どうしたらよいか分からなくてこまっていると思うから。 ・環境が変わって、心細いかもしれないから。
第3時	○話し合いの仕方を確かめ、進行計画を立てる。 話し合いを進めるための役割分担を決める。「考えを広げる話し合い」、「考えをまとめる話し合い」をポイントにして、進め方について計画する。
第4時	○計画に沿って、話し合いをする。考えをまとめるために、ふせんを使ってそれぞれの意見を整理する。  ○避難所に耳が聞こえづらい人がいる。 ・周りの音が聞こえなくて状況が分からなくて不安に感じていると思う。文字を紙に書いて伝えてあげるといいと思う。「ご飯ができましたよ」など。 ・文字で会話することで元気づけられると思う。 ○避難所には外国の人もいる。 ・日本語が分からなくて、どうしたらよいか分からなくて、困っていると思う。だから、簡単な日本語の単語を使って伝えたらよいと思う。 ○幼い子どもがいる。 ・環境が変わって知らない場所では落ち着けず、心細いかもしれないから、一緒に遊ぶことで、避難所を安心できる場所へ。 それぞれの人に合った話し方やジェスチャーなど工夫しながら、人に関わっていく。

4 成果

本授業実践の前に、全校で「ぼうさい授業」を外部講師の指導により受けたことで、「自分に何ができるか」を具体的なイメージをもって考えることができた。「防災」について、教科横断的に継続して取り組むことで、意識がつながり、考えを少しずつ深めていくことができる。